

平成27年度 第2回平田地域協議会 会議録（要約）

1. 日 時／平成27年7月29日（水）午後1時30分～午後5時00分

2. 場 所／平田総合支所 302号室

3. 出席者／（1）1号委員（団体推薦委員）

岩間政幸委員、阿彦健委員、菅原長昭委員、長谷部信勝委員、後藤純委員、
久松司委員、長谷部耕次委員（会長）、池田知子委員、佐藤みさ子委員、
阿曾彰委員・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・計10名

（2）2号委員（識見委員）

阿部重敏委員、石黒由香委員（副会長）、高橋栄子委員、佐藤鐵喜委員
・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・計 4名

（3）3号委員（公募委員）

藤原幸雄委員・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・計 1名

（4）酒田市

酒田市役所 阿部勉政策推進課長、斎藤正人政策推進主査兼地域振興
主査、松永隆政策推進主査兼大学連携主査

平田総合支所 阿部亨支所長兼地域振興課長、佐藤栄一建設産業課長、
地域振興課 富樫好課長補佐、太田英一地域振興係主任・・・計 7名
出席者合計22名

4. 欠席届／欠席者合計 0名

5. 次 第／・市民憲章唱和
・平田地域協議会

（1）開会

（2）会長あいさつ

（3）支所長あいさつ

（4）会議録署名委員の選任

（5）協議

- ① 過疎地域自立促進市町村計画（過疎計画）の策定について
- ② 新市建設計画の変更（計画期間延長）について
- ③ 平成28年度 平田地域づくり予算について
- ④ 地域課題について

（6）その他

（7）閉会

6. 会議録／（1）開会

▶富樫好課長補佐

それでは、ただ今から第二回の平田地域協議会を開催いたします。
初めに、会長あいさつをよろしく申し上げます。

（2）会長あいさつ

▶長谷部会長

皆さんこんにちは、第2回目の案内を差しあげましたところ、何かと忙しい中、また暑い中、出席をいただきまして誠にありがとうございます。

今回の課題としては、この過疎という言葉を目にするようになってから久しい年月を経ております。

ですけれども、私たちのところもそういう環境になるところもございますけれども、そういう言葉が出て来てから、では地域がこの過疎というものの制度によって恩恵を受けた現実があるかと反省をしてみますと、感じられるところ、良かったなというところはあまり感じていないのではないかと、こんなふうに思っております。

そうした中で一つはふるさと創生という政府の方から新しい手法が発表されています。

そうすると過疎とふるさと創生は、言葉として扱いは違いますが、けれども、地方に対する目的というものはそんなに大差ないと思います。

そういう環境からして、今日も皆さんから協議会としての協議をいただくものは、この過疎計画の策定について。

それから、市建設計画の変更、期間延長という事もございます。

それから、平成28年度平田地域づくり予算について。

それから、地域課題についてと、こういう題名で皆さんから協議いただきます。

ぜひこれからの執行部の説明を聞きながら、将来の事を念頭に置きつつ、この協議をすすめて行きたいと思っております。

それからもう一つみなさんの机の上に、これまでの協議会の市長報告内容ということで手元に配布されておると思っております。

これをよく見ますと、平成17年の合併から26年、7年も入れますとちょうど10年経っております。

その中で、10年間の資料をここに一括して載っております。

ただ、26年、25年、24年、この3年間については表現が懇談会という表現を使っておりません。

その前の表現は懇談会になっております。

私から感想として申し上げますと、懇談会は意見を交わすという意味であって、結論を貰うという意味は薄いのではないかと思います。

後半の3年間は懇談会という言い方をしておりません、課題という言い方をしております。

これは、こういうものがあるよという現実を掴む意味においては、十分に課題と言う表現は値する訳ですけれども、何れの部分においても、これから皆さんにこの中を精査して、こういう形だけの協議会、年間を通してあっていいのかどうか、本来であれば、答えを求めるといふ部分であれば、議論した内容から請願、要請、陳情という新たな言葉があるのですけれども、ここの部分には一切使われておりません。

課題によっては、こういう言葉を表現するような課題に絞って答えを

いただくんだと。

この地域に対して、このままではいけないので答えをいただくんだという市長との話し合いという場も、これからは考えて行かなければならないと思います。

それで、この資料は後でゆっくり見てもらいますけれども、ダブってる項目もいっぱいあります。

それから、まず端的に言えば答えが出ているものは何なのかの精査を試みたいと思います。

やはり我々、年何回かこういうふうに、皆さんの貴重な時間を割いてこういう会議をする訳ですから、やりました、終わりました、答えは出ていません、ではせっかくの皆さんの能力を無駄にすることになりますので、私は答えを求めて行きたいと思いますので、協力方お願いしたいと思います。

まず、話はこのくらいにして、中身については皆さんとまた話をしたいと思いますので、まず今日はご苦労様でした。

(3) 支所長あいさつ

▶富樫好課長補佐

ありがとうございました。

続いて、支所長のあいさつをお願いいたします。

▶阿部支所長兼地域振興課長

本日はお忙しい中、出席していただきましてありがとうございます。

先ほど、黙とうをしていただきましたけれども、本間市長が7月20日に亡くなられたため、丸山副市長が職務の代理をしております。

報道されておりますけれども、8月30日が告示で、9月の6日が投開票という事になっておりますので、よろしく申し上げます。

それから、7月21日に酒田みらいトークがひらたタウンセンターで開催されました。

30数名の市民の方から出席をいただきまして、様々なご意見や要望が寄せられております。

これにつきましてははまだ、集計されておられませんのでまとまりましたら、また皆様方にご報告させていただきたいと思います。

本日の協議会の内容につきましては、先ほど会長の方からもお話しされましたけれど、過疎計画の策定と新市建設計画の変更についての説明、それから28年度平田地域づくり予算と地域課題について、協議をしていただくこととなります。

どうぞよろしくをお願いいたします。

(4) 会議録署名委員の選任

▶富樫好課長補佐

それでは(4)会議録署名委員の選任に入りますけれども、恒例によりまして、資料裏面に名簿がございますけれども、上から順にお願いしておりますので、2回目と言う事で2番目の阿彦健さんからお願いしたいと思っておりますけれども、どうでしょうか。

▶長谷部会長

はい、では議事録署名人のことをお諮りします。

いま、事務局の方から発表になりましたように議事署名人を阿彦健さんに

お願いするという事でご異議ございませんでしょうか。

▶一同
異議なし。

▶長谷部会長
はい、それでは阿彦さんをお願いいたします。

(5) 協議

① 過疎地域自立促進市町村計画（過疎計画）の策定について

▶富樫好課長補佐
それでは、(5)の協議に入りますけれども、進行の方を議長からお願
いしたいと思います。

▶長谷部会長
それではさっそく協議に入ります。
1番の過疎地域自立促進市町村計画の、過疎計画の策定について、現行
「酒田市過疎地域自立促進計画」の参照ということになりますので、執行
部の説明をお願いいたします。

▶阿部勉政策推進課長（資料に沿って説明）

▶長谷部会長
どうもありがとうございます。
いま、説明頂いた、これは22年、23年進捗状況という事であります。
完了と言うところもあるようですけれど、これが実際に我々の生活の中
にどのような影響を及ぼしてきたのか、皆さんから意見があればお聞きし
たいと思います。

▶岩間委員
よろしいですか。
この間、市長と語る会で話しましたけれど、どの部類に入るんでしょ
うか、交通通信体系の整備、これにはいるんでしょいうか、林道という項目が
ありますね。
鷺沢林道等々、行き止まりになっているものがありますけれど、ああいう
やつの優先順位を上げてもらえないかな、と思うのですが、そういうもの
は、どのランクに入っているのでしょうか。

▶長谷部会長
答弁ありますか。

▶阿部勉政策推進課長
いまの、3ページめの中央部分の(3)の林道の整備でただいまご意見、
ご質問いただいた訳ですが、この部分については、林道整備はなかなか
完了するという事がございませんので、継続的に過疎債を利用しながら整
備を進めて行きたいと思っておりますので、表現としては継続にさせてい
ただいております。

ご質問のありました鷺沢林道の整備の優先順位という部分につきまして
は、私も詳しく確認しておりませんので、いろいろの林道整備の事業を毎

年行っておりますので、次回まで優先順位がどのような認識をもっているのかということをお農林水産課の方に確認してお応えできればな、と思います。

大変申し訳ないのですが、今日は個別事業については私では全てを把握しておりませんので、ご容赦いただければなと思います。

▶長谷部会長

どうですか、いまの答弁で。

▶岩間委員

すみません、深く追求する気持ちはないのですが、どうなっているのかなと、予算も絡むわけですので。

なんの利用価値もありませんとなると、あれまで金掛けたのはなんだったのだと。

地域に帰ると、めっちゃめっちゃ、個別事案になるかも知れませんが、不平等はあるんですけど、こういう場で発言する人がなかなかいない。

いろんなことをこれからもやらせていただきたいと思いますので、今日はこれで十分でございます。

いつか調べておいて聞かせていただければ結構です。

▶長谷部会長

いいですか。

ほかにあれば。

▶佐藤（鐵）委員

私も今年初めての委員なものですから教えてください。

自立促進計画が22年から始まっています。

それで、来年の3月31日で終わりということで、いろいろ目を通してみましたが、先ほど会長あいさつで言われましたように結論的なものが何も出ていない。

なるほど、こうやって計画が終わるような段階になってもまだ課題として挙がっているというのはどうなのかなと思いました。

それから、市長に報告したことの中でも、私の個人的な意見で申し訳ないのですが、ひらた生涯学習センター、ひらた里山の会で管理委託を受けていますけれども、あの広大な敷地、草は刈れば刈るほど出て来るといなかで、いま何もしていない遊休の残土だと思うんですけど、あの敷地の草がみっともないほど生えていて、年に1回6月の下旬ころシルバー人材センターの人が刈っていますけれども、我々は業務委託を受けている者として、南側の芝生、あそこをキャンプ場にしているものですから、キャンプ場を綺麗にしても、すぐ線引いて隣が草ぼうぼうではみっともないということで、かなり手をかけてみっともない状況をなくしていると。

まあ、請け負ったからには、請け負わせたなら却ってみっともなくなったというようなことはしたくないものですから、とにかく草刈り、草刈り、草刈り、ということでやっていますけれども、その遊休地の利用は全く何も無い。

それから生涯学習センターの業務委託、私どものほうは8時45分、いや、8時30分から5時15分までで、5時15分から10時まではシルバー人材センターということで、これまでも何回かトラブル起きましたけれども、トラブルが起きたときに我々は5時15分を過ぎたらシルバー人

材センターだから、我々は関係ないんだとそういう言い方をしなければならぬのが。

私はやるんだったら、どこで請け負おうが、これは入札で決まる訳ですけども、やるならば一括、そんな何時から何時までは誰々、何時からは誰々というような、こんなシステムはおかしいんじゃないかなと思います。

そういうことを一つ申し上げておきたいと思います。

それから、観光資源として経ヶ蔵、胎蔵山、十二滝、これがある訳です。

いま、ここに岩間さんがいる訳ですけども、結構他県から来るお客さんがいる訳ですけども、記帳台を設けておいて、いつ誰がどこからどういった人が何人来たか、それを資料にして、これを観光の財産にしてですね、それをもっともっと良くしていきたい。

そういう考えを持っております。

ただ、一回大きく経ヶ蔵も整備をした訳ですが、その後一切手を付けていないという事で、登山道も年々谷側に落ちているという状況です。

まずは春の段階で、小学校の自然体験学習が始まる前に、危険を予防するという事で、ロープを張ったり、除草したりという手直しはしておりますけれども、大きな物はなっていないという事で、どんどん登山道も悪くなって来ているというものもありますし、そういう事を実施計画の中でやるという物もあるので、ぜひ、このくらいの予算しかないけれど、やれるところからまず、やってみましょうという事が無いものかなと。

それから登山道の草刈りなんですけれども、円能寺から山頂までは円能寺地区、山頂から十二滝の方は確か鹿島か、そこらへんの方で市の委託を受けて草刈りしていましたが、いまから4年、5年くらい前にもう自分たちは出来ないという事で返上したそうです。

その後、まったく誰も手を付けないということで、4年前だと思えますけれども、県の海浜青年の家の職員が経ヶ蔵登山をするという事で下見に来ましたが、とてもじゃないけれど道路が分からない、笹の葉もあって。

そういうことで、そのままにはしておけないのではないのかな、ということで観光物産課の方に申し入れをして、じゃあ、里山の会で総合的な請負でやりましょう、という事で3年、4年、もう5年目になりますけれども、そんな事で行っているという状況なものですから、そのへんも今後どういう形でやっていくのかという事も、何とか示してくればなというふうに、せっかく他県などからも来ている訳ですから、しかも市の事業計画として自然体験教室ということで、経ヶ蔵登山などもやるわけですから、何とかそれに対してのものを示してもらえないだろうかかなと思います。

▶長谷部会長

いまの意見に対して、どなたか答弁出来ますか。

▶阿部勉政策推進課長

はい、会長。

私の方から大きなところをお答えさせていただいて、支所の方から細かいところを答えていただくようにします。

まず過疎計画を26年度から27年度まで進捗させてきた、計画に基づいて事業を進めてきた訳ですが、なかなかその結論が出ていないのではないかという表現、表現というかご指摘をいただいた訳ですが、過疎地域は人口が減少してしまって条件が不利な地域に対して、有利な財源をあてるという国の制度です。

そういった制度をまちづくりを、旧平田時代から行ってきました。

現在でも八幡地区、平田地区、松山地区についてはこの有利な財源を使って、まちづくりを進めて来ております。

なかなか、人口が減少するという傾向は国全体でもそうですし、この過疎地域においてはなお一層の人口減少が進んでいるという事になってしまいますので、過疎計画の成果と言いますか、到着点というようなものはなかなか無いということになりまして、有利な財源があるうちはこの事業を使いながら、まちづくりをして行きたいという思いでございます。

終わりが無いと言いますか、国ではその都度延長、延長でこの制度を作っていただいておりますので、我々の気持ちとしては、5年間国で延長していただけるということでございますので、この計画を見直していきたいというのが基本的な考え方でございます。

それから、生涯学習センターの西側の市管理の土地の部分の草刈りのお話しをしていただきました。

私の知る限りでは、現在のところその土地については酒田市の土地開発基金と言う土地を買うための基金で購入した土地になっていまして、基本的には管財課の方で管理をしなければならないというような状況だと思っております。

ひらた里山の会の皆さまから草刈りをしていただいているということについては、大変感謝を申し上げるところでございますので、なお、管理上不適切だというご指摘も頂いておりますので、担当の方には伝えておきたいというふうに思っております。

それから生涯学習センターの業務委託の時間、役割分担といいましょうか、その部分についてはどういった経過でなっているのか、私は詳しくわからないので、その部分と経ヶ蔵の草刈りについての部分については支所の方からちょっとお答えさせていただきたいと思っております。

▶長谷部会長

はい、ちょっとお願いがあるのですけれど、発言をする場合は皆さんが全部知っておきたい部分だけですから、皆さんに聞こえるようにやってください。

聞こえたようで、聞こえないようで、ではなかなか解釈が難しいので。

この部屋ではいくら大きな声を出しても結構ですから、まず、皆さんの納得できるような方法でやってください。

はい、いまの答弁でどうですか。

▶佐藤（鐵）委員

はい、会長。

課長、それでは3月31日で、びたっと終わるのではないと、これは5年なり、そういうので延長されるのだよという理解でよろしいでしょうか。

▶長谷部会長

はい、どうぞ。

▶阿部勉政策推進課長

はい、皆さん方からご意見をいただいたものを、計画作り直しまして国に提出しますので、認められれば継続していくということです。

▶長谷部会長

いま皆さんお聞きしたと思う訳ですけれども、執行部体制の方は我々の

意見を聞いて制度的に見直すものは見直して、今後努力もして行くという意味合いの答弁が出て来るのはこれ当然なんです。

ですから、我々は実質、日々の生活の中からそういうものを体験して、執行部体制にこういう会合を利用して意見を述べるという事ですので、片方はそういう制度的な部分を解釈しなければならない、片方は実質生活の中から現実を取らなければならないという、その非常に違いの部分があるとは思いますが、そこを話し合いの中で、より早く実効性を求めて行くのがこの会合の趣旨だと思いますので、この辺は良く話をして行きたいと思います。

それで、何かありますか。

▶阿部勉政策推進課長

少しよろしいですか。

私の説明がまずかったかも知れませんが、策定スケジュールの裏、一枚目の裏の方の策定スケジュールの2つ目のところに、次期計画に盛り込む事業については、次回お示しをしたいと思っております。

本日はあくまでも計画策定の方針と進捗状況についてということをお話しをさせていただいて、資料の一の2の作りなおしたものを次回お示しをしまして、例えば鷺沢の林道の改良についてはどのように考えているか、ですとか、もっとこういう視点で整備を進めなければならない部分がありますというようなご意見は出来れば次回頂ければなど、こういうふうにいるところなんです。

▶長谷部会長

はい、それでは随時、そのような形で皆さんに分かりやすいようなことをとってください。

ほかにありますか。

▶阿部支所長兼地域振興課長

実施計画に盛り込む事業として、この会が終わりましたら各自治会長とコミュニティ振興会の会長さんに、いままで手を付けられていない事業や、これから新しく要望したい事業を聞き取りする予定でおります。

そういうものをまとめたもので、実施計画に盛り込む平田の案と言うか、そういうものをお示しする予定でおります。

それからもう一つ、先ほどの生涯学習センターの委託に関して、ですけれども、社会教育課の方とひらた里山の会の方で契約をしております、その中に、こちらに入っていないのが実態だと思います。

いま、お話もありましたので、社会教育課の方には一日を通して里山の会で委託を受けた方がスムーズだというような事をお伝えしたいと思いません。

▶長谷部会長

いま、支所長の答弁もありましたので、皆さんから覚えていただきたいと思えます。

▶岩間委員

いま説明ありましたがけれど、これをやって頂きたいとか、28年度予算に絡んで、いろいろ我々も要望ある訳ですけれども、そういった要望はこの次に出せばよろしいんでしょうか、そういう要望を皆さん持ち寄ってい

と思うんです。

それぞれの要望が、予算のどういった部分に反映するのかちょっと分かりませんが、そういうのを発言するのは今日でなくて、この次で十分反映出来るのか、例えば酒田市の予算はだいたい8月9月中にだいたいの構想を出さないと盛り込まれないという話も聞いていますし、そういうのを含めて、いつ発言したら来年度の事業、あるいは今後の事業になるべく早く反映出来るような状態になるんですか、この次でよろしいんですか。

▶阿部勉政策推進課長

過疎計画に織り込む、織り込まないについては、次回こちらの方で資料を出させていただいて、説明をさせていただきますので、例えば先ほどの林道の整備の部分については、こちらの資料の3ページ目の(3)の林道のところで書いていますので、基本的には全ての林道が過疎債の対象になります。

ただ、具体的にこれだけの山を抱えていますので、どの林道から整備を、順番としてどの林道から手をつけていったら良いのかという事については、28年度予算の検討の中に入ってまいりますので、その時期については年内いっぱいぐらいで優先順位を決めていくという事になります。

次回、こういった林道についても整備をして欲しいですとか、この道路についてはこういった改修が必要ではないかというようなご意見をいただければ、こちらの方の検討のテーブルに上がる、いままでも皆さんの方から、いろいろなご意見をいただいて、そのテーブルには上がっている訳ですが、その優先順位の見直しなども次回以降出来るという事になりますので、次回の会の時にご意見をいただければと思います。

▶岩間委員

それで結構ですけれども、私が言いたいのはこのあいだ市長と語る会で委員長が言っておりましたけれども、例えばこの地域全体に関わる、あるいは日本全体に関わる大きなうねりとして持っていきたいものもある訳です、例えば冷水米とか、要するに昔から、ちょっと時間をいただければお話ししますけれども、冷や水かかる米は美味しいんだよと、そういうのを自他ともに認めるところですけれども、旧平田町時代においては仁助新田の倉庫の米が一番早く無くなったんです。

バイヤーが名指しでもって、指名でもって買いに来たんです。

いま、つや姫とか様々言われていますけれど、あれは人為的に美味しくしている訳です。

冷水米に右倣えして、人為的にそれを何とか近づけようとしている訳です。

冷水の方は残念ながら収量は一割から一割半必ず落ちます。

非常に農地も荒れて来ます。

誰も手を付けませんよね、米は上がらないし、単価は荒れたというのは本当にその付加価値を付けてやって行くのがこれからの過疎対策じゃないかなと、そういうソフト面に金を突っ込む。

例えば、そういったのを利用してセンターがばんばん持っていくとか、そういう形を冷水米はここだけのじゃありませんので、いろんなのがあります。

そういう方々とし合って、こういったのを出し合って、そういったのを利用してバンバンやっていく、と。

それで、消費者も冷水米って何なんだという事で、関心を持ち始めれば

付加価値がついて来る訳です。

そういうふうにしてタイアップしてどんどんどんん持っていけば、いまのところは山場のリスクのりですけれども、地の利はリスクのりです。

これを利益の利に変える事も可能なんじゃないかと。

いまのところ誰も受けてもくれません。

でも、そういうことを、このあいだ言ったら農林水産部長も良い答弁をしていましたけれど、あれは非常に一つのプロにとって、例えば法人等々で対応をしたいという、そういう答弁だと思うんですけど、大きな目で、例えば、このあいだ私、農協の相談会でも発言しております。

組合長、結構いい答弁していますので、そういうところとタイアップして、是非とも酒田市が発信場所となって、大きなうねりとして持って行って欲しいんです。

これは4、5年のスパンで十分可能だと思います。

というのはこの、つや姫の販売戦略を真似すればいい訳でございます、いまつや姫、非常に功を奏しています。

あの販売戦略を、日本全国販売戦略を真似て、そしてこの冷水米の価値を高めていく、そうすると平田地区のいろんな方々がやる人が出て来るのかな、とそういう感じがするものですから、そういうものもこういう中に是非ともソフト面も盛り込んでもらいたい。

そういう発言はどこですればいいのかなというのが頭にあったものから、いま発言をしているところです。

ですから、そういうのはこの次でいいですよというのであれば、この場で発言しなくてこの次でも良い訳ですけど、そういう発言が頭の中にいっぱい詰まっています。

発言したい事は胎蔵山の開発を含めても、そういうものはこの次でよろしければ、発言しますけれど、それでよろしい訳ですね。

いま、すっかり喋ってしまいましたけれど。

▶長谷部会長

はい。

▶阿部勉政策推進課長

ありがとうございます。

基本的には次回ということで、ただ今の冷水米の件については先日行われた未来トークの中でも農林水産部長がしっかり受け止め、聞いて回答しておりましたので、しっかり頭の中に入っていると思いますので、皆さんとまた話し合う機会があるのではないかと思いますので、それに限らず次回また、ご意見いただければと思います。

▶長谷部会長

はい、答弁は以上のものですけれども。

▶岩間委員

了解です。

▶長谷部会長

もう一つ皆さんに。私の方から申し上げますけれども、この物はいつ話をしなければダメだとか、いつでは良いとか悪いとか、これはございません。

この場で思った事はどうぞ出してください。

出さない事にはテーブルに上がりません、相手にも伝わりませんので、まず出す事です。

そして練って行って、その時期がいつなのか、いつならどういうふうに出るのか、これ予算も含めて皆そうなんですよ。

例えばね、あなたの意見はこれ、締めて終わったから効きませんという事はしませんので、これは皆さんの意見は意見として尊重して聞くという事が基本ですので、別にそういう物にこだわらないで、思った事はどんどん出してください。

いまの米の問題もそうなんです。

遊佐米と言うのが販売して何十年となります。

これ食管法の時代から、それを曲げて販売したのが遊佐米なんですから。

いまだに続いているというのは、そういうものを長くやると、お客さんと、消費者と生産者とのパイプが出来るとそう簡単には壊れないという現実だと思います。

ですから、何事もそうなんですけれど、思った事は全部出してください。

出さない事には何があるのか分かりませんので、まず遠慮しないで出してください。

それからもう一つ、先ほど観光面の部分で出ていましたけれど、一つは観光協会という部分のありようが酒田市ではちょっといま、何となく不安定な要素があるんです。

これは八幡、平田、松山に全部、独自の行政の時は観光の部分をやってきましたけれど、合併になってからその行動と、酒田市の旧来の観光の部分と、どうも意見の調整が上手くいっていない。

これは現実的にありますので、それはこれから執行部も含め、我々、正直言って先ほども、ふれあい商工会の方でも経済行為というのは観光と切り離せない環境がありますので、話をしてきましたけれど、やっぱりその辺にもなんとなく不安な要素、しっかりした、すっきりした状況が出ていないので、これも将来の課題だと思います。

はい、この過疎については他に何かありますか。

▶阿彦委員

会長、よろしいですか。

この事ではないのですけれど、前回のこの会の時にもあったと思うんですけれど、会長はなんでもどンドン出してくださいとおっしゃいました。

まあ、確かにその通りであるとは思いますが、前回の会議でも話がどンドン会の中で飛んで行って、收拾がつかなくなる面もあったという事で、前回確か、まず協議の内容に沿った形で進めて行って、まず、話を進めましょうという話が出ていたように思うんですけれど、出来れば時間も限られていますので、質疑とるのは良いんですけれど、その場合は出来ればなるべく簡潔に受け答えしてもらって、まあ、いろんな事が話に絡んでくると思うので、そういったのはまた最後のところでまとめて、いろんな話を聞いてから端的にやった方がスムーズに会は進むのではないかと思うものですから。

▶長谷部会長

あの、それはここに資料が出ていますから、その課題の資料に関しては、皆さんの意見を出してくださいという意味ですから、資料外はその他という事になりますから、まずこの資料説明を受けて、それに対する皆さんの

意見、思いがあったら全部出してください。

それでない、それを討議終わってからまた、となるとぶり返しになりますので、ですから、他にありませんかと聞くのはそういう意味もありますので、どうぞ執行部の説明の資料の内容について、これはどうなのというものがあつたら、どんどん出してください。

過疎の部分についての意見は皆さん、これで納得というのは無いんでしょうけれど。

▶藤原委員

はい、一つ。

この資料の3ページ、最後の方の項目にデマンドタクシー導入事業というのがあるわけですが、これはあの、完了となっていて、導入事業。

一旦、一区切りとすると記されていますが、見える人には見えるのでしようが、平田地域の中でのこのデマンドタクシーの状況というのは、これは当初のねらいどおりに達成された体制が出来ているという、出来た、という、そういう意味なんでしょうか。

教えていただいてもよろしいですか。

▶長谷部会長

はい、執行部。

▶佐藤栄一建設産業課長

会長よろしいでしょうか。

デマンドタクシーですけれども、平田地域には導入されておられません。要望等があるというのは、私、今年の四月からですけれども、要望等があつたかというの聞いておらないところです。

その下に公共交通利用促進事業、生活交通バス低減運賃の運行事業とありますけれども酒田でいう、るんるんバスですけれども、100円バスという形で、平田地域はこの事業で、どうしても足が無い方等々の場合はこのバスを使つていただくということ、いう形でございます。

▶長谷部会長

ということで、どうですか。

▶藤原委員

平田ではそういう要請が無いという事ですか。

▶佐藤栄一建設産業課長

要請が無いというか、いままでそのような話が無かつたという事です。

▶阿部支所長兼地域振興課長

平田地区では、デマンドタクシーにするよりも、いまのワンコインバスの方が利用者に対して便利が良いという形でなっていますので、デマンドには至らなかつたという事です。

▶藤原委員

はい、分かりました。

ありがとうございます。

▶佐藤（鐵）委員

いまの関係について、私もワンコインバス導入をやったものとして。

平田の場合は三つの沢から流れて来て合流すると。

最上川の向こうは何もない訳ですから。

ですから、デマンドタクシーが走る必要があるのかと言えば、私一個人としては何も必要無いと思います

ただ、ワンコインバスになった時点で、なんで郡鏡地区はその恩恵に浴せないのかと、そういうことがあって、支所長も知っていますが、郡鏡地区にワンコインバスを走らせている。

ところが、利用者が全くないという事で。

利用者が無いという事は要するに要らないという事だということで、一年間で打ちきりました。

確か一年間走ったはずだな。

▶阿部支所長兼地域振興課長

いま、あったんじゃないかな、アイアイ。

▶佐藤（鐵）委員

いや、ワンコインバス導入の時の話で。

▶阿部支所長兼地域振興課長

ああ、それならそうです。

▶佐藤（鐵）委員

それで、郡鏡の方もなんで郡鏡の方を走らないのかという事で走りました、走ったけれども結果的に利用者が無いということで打ち切った。

そういう経過があります。

▶長谷部会長

はい、その他に。

こういう意見もありますけれど、他にありますか。

この問題は全地域となっていますけれど、平田地域限定となっていないので、ちょっと解釈がかわるかも知れませんが。

ほかにどなたか、過疎については。

では、過疎についてはこの辺で終結してよろしいですか。

この過疎の計画の見直し、27年度までというふうにありますけれど、これも先ほど言ったように、10年間の市の懇談会資料というものの中でも、この過疎に関するものも非常に含まれておりますので、この執行部で今日出した資料と、今までの10年間の資料と精査をして、次の会合のなどにまた意見として皆さまから出してもらえればありがたいと思います。

それでは次の課題に移ります、執行部の説明をお願いします。

② 新市建設計画の変更（計画期間延長）について

▶阿部勉政策推進課長（資料に沿って説明）

▶長谷部会長

ただいまの説明で、皆さん何かご意見ありますか。

無ければ、いま執行部からあった説明を基本として、皆さん了承いただけますか。

特に反対も無いようですので、次の課題に移りますよ。
よろしいですか、移っても。

▶委員一同

はい。

③ 平成28年度 平田地域づくり予算について

▶長谷部会長

それでは次の課題に移らせていただきます。

3番の平田地域づくり予算について、次の課題とします。

執行部の説明をお願いします。

▶阿部支所長兼地域振興課長（資料に沿って説明）

▶佐藤栄一建設産業課長（資料に沿って説明）

▶長谷部会長

地域予算については、いま説明をいただきました。

これを相対的に見ますと、予算は増えておりませんね。

むしろ、最後の計で見えますと減っております。

これで皆さんに意見をお願いしますけれども、この内容について、こういう予算の状況について、これで良いのかどうか。

この事業はこうして、例えば予算を多くしてもらいたいという意向があるのか無いのか、そのへんのところが議題になると思います。

みなさん、何か意見ありますか。

無ければ、執行部に私から一つ確認をしたいものがあります。

それは、目ん玉まつりの内容のところについて、私あの、商工会との絡みもありますのでお願いしたいのですが、このひらた目ん玉まつりが、8月14日4,800というのは、その一日の客動員数という形で4,800という数が去年はとれたということになります。

それで、正直のところこれ、多くなると保安要員が足りないのが現状なんです。

あらゆるところに車と、あらゆるところから人が動くもんですから、どういような安全確保をすることが出来るのか。

今までの保安要員的な部分は様々な要素があるので、支所長、あれですか、町でこの事業の中でガード会社をお願いしている人数と、交通安全協会平田支部で人が出てやっている部分という事の中で、ガードマンの部分、あれ、行政予算で払っているんですよ。

▶佐藤栄一建設産業課長

ひらた目ん玉まつりは、いまおっしゃった通りですね、主催が酒田ふれあい商工会、事務局の中に支所が入っていますけれども、負担金として746,000円を市の方から出しているんですけども、その他に花火の協賛金とかですね、共催負担、農協さん、盆踊りにしろ、やる訳ですけども、そちらとまた平田支所の観光物産事業実行委員会から協賛金等々で収入になります。

その中から保安要員とするガードマンさん、業者さんですけども、花火の要所、要所とかですね、交通規制。

市の職員、その他、商工会さんの方も立っている訳ですけども、その先程の収入の中からプールして出しているものですから、去年の決算書ありますけれども。

そのなかでは交通整理で、交通誘導員なんかで108,000円出しますけれど、ちょっといま現在、その108,000円の内訳というのがここでは把握出来ませんので、全体の収入の中からプールして、このガードマンさんの分を払っているという形になっておりまして、申し訳ありませんけれどもいま、人数的には把握をしておりません。

▶長谷部会長

はい、それじゃですね、じつはこのあいだ今年度の事業計画と前年度の反省という部分で会議をしておりますけれども、やはり人出が多くなって、そのエリアの中に強引に車で乗り込んでみんな出てきた、と。

それでやっぱり、どうしてこれを規制するか。

これが課題にあがっているんです。

それで、これを実行するためには保安要員を増員するという事がまず一つだろう、と。

警察の方は配置するような要員というのはそう簡単に出ません。

交番、駐在が一番主力になって動いて、交通課の方ではちょっとした時間だけはパトロールはするんですけどもなかなか、会場のあの中に下手をすると車を突っ込もうとする人間もいるという事で非常に危惧をしているということで、正直なところ保安要員を増やしていただきたい。

これは執行部の予算の中で対応をしてもらいたい、というのが会の中でしておりますので、これは後でまた正式な状況で話に出て来るかと思えますけれども、ですからこの予算746,000円をその部分の方に割いていくというのはなかなか容易でないのかなと思うので、それを考えてもらいたいというのが一つあるんです。

▶佐藤栄一建設産業課長

先ほどから申していますが、746,000円を市の方から補助として出す訳ですけれども、それを踏まえましていろいろなイベントを行う経費等々に割り当てていきますので、今年の予算的には746,000円しか市の方では持っていませんので、次の実行委員会の時は予算書が出て来ると聞いておりますので、先ほどの数字は昨年度の決算書しか無かったものですから、その数字で落としましたけれども、今年は市の補助金の740,000プラス、共催費、花火の協賛金は花火にだけ充てると思っていますので、その中で何とか工夫していただくか、あとは人員的に市の職員も花火のところには張り付いている状況ですので、何とか工夫して実行委員会の方で話をしていただいて、保安要員の確保を何とかお願いをするしか今年は無いかと思います。

ただ、来年度の予算的にはその辺を踏まえまして、商工会さんで事務局を持っている実行委員会で、ですね、実際どのくらい必要なのかという事も数字を出していただいて、こちらでも予算要求をしながらですね、頑張っ確保、ちょっとどうなるか分かりませんが、そういう来年度以降の措置は出来るかと思えますけれども、今年は金額的には増やせませんので、何とかほかの予算との関連も見ながら、あとは人員を、ですね、どちらかからご協力いただくしかないと思いますので、よろしくお願ひします。

▶長谷部会長

はい、わかりました。

ほかに何かございませんか。

▶岩間委員

この調布の学園、29年度まで酒田市の政策としてありますけれども、それはそれとして、何でこう減ってくるのか、いろいろとあるんだと思いますけれども、確かに忙しい、介護等々、あるのかも知れませんが、私なんかは介護しながら受け入れて、何ともなかったですけど、そんなにね。

ただ問題は、旨みが無くなって来るんですよ。具体的に言えば、例えばある程度皆さん期待しているんだと思います、調布というところと付き合う事によって、まあ、いろんな経済効果が期待できるのかなと、そう思う方々もいるんだと思いますし、私もその一人です。

まあ、それはそれとして、私は13年、最初からやっています。

非常に可愛いですね。自分の研磨にもなりますし、いろいろな斬新な考えなども取り入れられますし、私は大好きです。

私、男の子しか育てていませんので、可愛いですね、女の子は。

大学行ったとかそういうのもメールが来ますので、結構面白いです。

ただ、これからの流れとして、保護者対保護者の付き合いとかあっても良いのかなと思います、これから。

具体的に言えば、酒飲み場をちょっと予算持ってもらって、まあ、自己負担も当然ちょっとあって、それで結構集まると思います。

私なら率先していきます。

予算付けていただいてやってみれば、いろんな話が出て来ると思いますし、経済効果としても面白いのが。

実行委員の方々は教員等々あるみたいですけども、一般受入の方はなかなかこう、無い訳で、その父兄の中にも結構、産業、流通にこう精通した方々、あるいはこの農水産物の販売に長けた方が結構いるのではないかと、それがこの後援を受けられるとか、そういう幅広い見地を持っていれば、もっと長く続くのかなという感じがします。

泥臭い話になりますが、考えてみる必要があるのではないかなと思いますので、是非とも来年、あるいは再来年、大人としてもこういうのをぜひとも取り入れてください。

多かれ少なかれ、吸収する物があると思います。

やってみて、集まらなければしょうがないですけども、結構集まってくれる人がいるんじゃないかと思います。

その生徒の親御さん、あるいはその親戚の方々でもよろしいのではないかなと思いますけれど、結構、我々吸収出来るものがあると思います。

そこからきつと、さっきの過疎に結びつく何かが、何かが見つかるかも知れません。

是非とも、そういった形で予算を持ってください。お願いします。

▶長谷部会長

はい、それでは執行部のほう。

▶佐藤栄一建設産業課長

田園調布学園につきましては、最初に受け入れ家庭ですけども、先ほど申しましたようになかなかですね、介護をしながら受入れを予定されている家庭も沢山おるのかと思いますけれども、なかなか家庭の事情という事でお断りされることが結構多くなって来ています。

以前は何かかなりの人数で80数世帯、平田だけで賄っていた。

現在は半分くらいは平田以外の地域にお頼みしなければ、60数世帯賄えない状況でございます。

なかなかやっぱり、奥さんというか料理というか、ご飯作りがあるものですから、お母さん、あのお婆ちゃん、奥さんのご理解が無いと出来ないという事もあるようです。

今の中学生、私も今年ここに来て初めて受けたんですけども、アレルギーとかですね、食生活偏っていて、あれ食べられない、これ食べられない、そういうのは学校の方では食べさせてくださいというんですけども、そばアレルギーとかですね、いろいろなアレルギーがあって、どうしても食べると死につながるというお子さんもいました。猫犬ダメだとかですね。

そういうこともあって、なかなかちょっと最初は受けてみても二年目以降は、というご家庭もあるようでございます。

あと、親御さん同士というか、親同士の交流というのも、いま、話ありましたけれども、学校側のいろんな考え方もありますでしょうし、なでしこ祭という形で受け入れ家庭の皆さまを東京の方に行って頂くというような事も措置はしているところです。

まあ、全員は無理ですけども、まあその辺で。

私も行ったことは無いのですが、なでしこ祭のときはあちらの親御さんも来るという事ですけども、なかなか、交流の場、酒飲みも無いという事ですけども、そのへんは学校側とも出来るものか出来ないものか、ご相談させていただきたいと思います。

▶長谷部会長

はい、ということです。

▶岩間委員

ですから、是非とも自らね、なでしこ祭行っていますけれども、自然のあそこでもって、二時間くらいかね、実質的には二時間くらいなものでしょう、何も出来ないんですよ。

ですので、違う角度でそういう場を。

当然、予算措置とか必要になる訳ですけどね。

是非とも前向きに検討していただきたいと思います。

▶佐藤栄一建設産業課長

あともう一つすみません、付け足しみたいです。

経済効果という件に関しては、やっぱりファームステイということですので、いま、農林水産部のほうで農政課というのがいま、事務局になるというのがその辺のあれで、やっぱりそのめんたま畑さんもそうですけれども、特に平田地域の物産的なものを、これまでもそうですけれども田園調布学園さんの方々に、広く周知しまして買い求めていただくという事でやっておりますので、そういう効果では、そういう事業もやっているという事もちょっとお伝えしたいと思います。

▶岩間委員

それも含めて承知していますけれど、それも頭打ちの状態ではないのですかと、新しい可能性を掘り起こす意味でも、考えてみて下さい。

▶佐藤栄一建設産業課長

わかりました。

▶長谷部会長

はい、これでよろしいですか。

▶佐藤（鐵）委員

ちょっと、あの、支所長にお願いなんですけれども、予算だとか額だとかは関係無しにして。

里山さかた交流人口拡大事業も、担当の太田さんが大変に苦勞をされているようなんですけれども、いま既に3校終了して、これから残り3校が予定されていると。

そんなことで、今さっき、支所長の方から受けている里山の会の方が一杯いっぱいだという話をされましたけれども、やはり、学校の計画書が出て来るのが遅いということで、出てきた段階で我々は招集掛けるんですが、既にもう、指導員も忙しい人たちですから、日程が入っていてどうしようも無いというようなことで、容易でない部分があるという事ですので。

学校の年間のカリキュラムなんていうものは、4月の以前に決まっている事ですから。

それで、夏休みがヶ月くらいあるという事で一学期の終わりから二学期の始まりにどうしても集中する訳ですから、やはりオーバーブッキングすることがある訳です。

そうするとなかなか大変だということで、去年からとにかく計画は早く出してもらいたいと。

それさえ出てくれば対応も出来ると要望して、学校の事は来週の事が今日決まるという事は無い訳ですから、歳末にはあらかじめ決まっているはずですから、荒っぽい日程で構わないので、やることは大体決まっていますから、その辺、要望しておきます。

▶長谷部会長

はい答弁、支所長。

▶阿部支所長兼地域振興課長

その打合わせが足りないというのも、職員の負担がちょっと大きくなっているなと感じています。

学校側の、いわゆる主体性が足りないと感じておりますので、これからまた打ち合わせするということになっておりますので、そういう時に学校側の事業としてやるものに対して協力していくという形を強く、強くというか学校側から主体性を持ってもらうということを要望していきたいと思えます。

▶長谷部会長

はい、どうですか。

▶佐藤（鐵）委員

この事業は阿部市長の時点で、何で地元でそういう施設なり、何なりがあるのに、何で鶴岡市の金峰少年自然の家に行かないといけないのだから始まっているんですね。

それで、学校にすればあそこはスクールバスにどーんと乗せて連れて行けば、すべてお任せなんです。

自分たちが実際に山に入る事も無い、川遊びも入る事も無い、ご飯を作

る事も何にもない、その延長なものだから、なかなかその切り替えをしてもらうというのはやはり、意識改革というものは大変なんだと思います。

今年から太田さんが自主的にやってもらうよという事で、かなりやらせるようになっていますが、その延長で来ている物だから、学校はお任せで、だから山に登っても全然口は出さなければ、手も出さない、全部お任せという、山登りの好きな先生なんかはいろいろありますけれど、まあ、登るのが精一杯で生徒を見る余裕が無いというのあるかも知れませんが。

そんなことで我々も、頭数さえあればどうでもいいという訳にはいかないのですよ。

大人の山登りであれば、どんな事故があろうともそれは自己責任だよということになっていきますけれど、やっぱり子どもの山登りは自己責任を求める事が出来ませんので、とにかく事故は絶対にあってはならないという事ですから、指導員も頭数さえ揃えばどうでもいいということではなくて、やっぱり知識のある人を揃えたいものですから、そういう要望をしています。

▶長谷部会長

はい、他に。

▶阿彦委員

すみません、大変申し訳ございませんが基本的な事をお聞きしたいと思います。

この地域づくり予算というものはどういう性格の予算なのか、どこから出て来て、例えば何か新規の事業でやりたいと言った時に、いま減っていると書いていましたけれど、増やしたりするとかは可能なものなのか。

▶長谷部会長

執行部。

▶阿部支所長兼地域振興課長

この協議会の予算も、地域づくり予算の中に入っている訳ですけど、国内・国際交流とか、地域内の観光イベント、それから地域特性を伸長する事業、地域内の生涯学習活動事業、地域内の住民と連携していくような事業ということで、それぞれの支所が独自におこなっている事業であります。

その他に庁舎の維持管理なんかも含まれている訳ですけども、増やすということは、やってみないと分かりませんが、一定のシーリングがかかって総額いくら減らせという形を言われることもあります。

まあ、合計額を守れば中身は任せますよというような言い方もされていますけれど、一気に大きく増やすというのはかなり難しいのかなと思っています。

▶阿彦委員

要は今まで平田、松山、八幡、各、それぞれの自治体で独自にやって来た事業を継続するために取ってもらっている予算という訳ですね。

そうすると、なかなか金額的に増額というのは難しいものがあるということになりますね。

▶長谷部会長

なにか答弁ありますか。

無ければ阿彦さん、他にご意見ありますか。

この地域づくり予算というのは最後の計にもあるように、使っているのはカッコ内であって、だから27年度の数字はこういう事で、ならないといけないんだということですから、問題はこの一つ一つの内容、この地域の住民が考えてもっと積極的に活動を展開して、内容を充実させたものを実際にやれば、これは出来ないという決まったものでもないで、ぜひ皆さんからそういうところも考えて、これはどうしても必要、欠くべからざるものだから予算を増やしてくれと、こういう行動をいかに取るかなんですよ。

ですから、内容をどう精査するなんですから、これがあるからこれ以上もうダメなんだという認識は持たないでもらいたいと思います。

そうしたら地域の発展なんて何も無いんです、あと。

私の意見はそういう事ですので、それを踏まえてこの予算にほかの意見がありましたら、どうぞ出してください。

▶石黒副会長

5番の平田っ子交流についてなんですけれども、以前から聞いていましたが、7月ごろになると地域振興課の方から推薦お願いしますと来ます。

今年も3回だか4回だか来ました。

でも、どうしても聞いてみても、うちのクラブ員でも、親が、とか子どもの都合が、とか合わなくてお役に立つことが出来なかったんですけども、行く時は良いんですけど、行けばやっぱり受け入れも同時に承諾みたいなのが一番、保護者としてはネックのようなので、その宿泊が大変だということであればそれこそ生涯学習センターに、一同に泊めてあげるとか、結局宿泊受け入れても、ほとんどボランティアなので、うんというのも難しいのかなというものもありました。

どうしても続けたいという、その企画を大事にしたいというのであれば、内容を検討して行かないと、受け入れてもらえる、あと、行ってもらえるような内容に変えていかないと持続はちょっと難しいかな、と思っています。

▶長谷部会長

そういう意見に対して何かありますか。

▶阿部支所長兼地域振興課長

その通りだと思います。

向こうに、平成26年度に平田の児童が行っている訳ですけども、その時も向こうの受け入れ家庭が少なく、一部、先ほど言った生涯学習センターのような施設を使って泊めてもらって、その子だけがずっと施設に宿泊するというのは具合が悪いので、一般の家庭に泊っている子どもと回して、一泊は集団で泊ってというような扱いでしたところもあるんですけども、泊れる子と集団で泊れない子が出てくるという事も具合が悪いのかなとは思いますが、今回、今年これから受けれるのも19名が来て、12軒しかいないということは複数の子どもを泊める家庭がいるという事なんですけれども、これも市全体で今後の友好都市との交流も含めて検討していくと、いうふうになっておりますので、その際にもう一回考えて行きたいと思っています。

▶長谷部会長

ということですが、どうですか。

▶石黒副会長

では、市の企画としてということになると、ここの地元のこの予算で無いところの上でというか、地域づくり予算ではなくなる、酒田市に全部なる、オール酒田ですとしたり、地域づくり予算外に出てしまうんでしょうか、この田園調布なども。

▶阿部支所長兼地域振興課長

田園調布については出ると思います。

ただ、空いた所について別の事業を入れるかというのについては、まだ相談事だと思いますけれども。

平田っ子に関して言いますと、こちらの方は平田地域の子どもに限定していますけれども、海津市の方については旧平田町だけではなくて、新しい海津市全体の小学生を対象にしています。

ですから、そういう方向も。

そして、八幡にも松山にも、そして酒田市にもそういう事業があって、同じようなことをそれぞれやっていて、八幡と松山は同じ年に行って来るという形で、八幡は沖縄県の東村ですし、松山は鹿児島県の志布志市という事で、冬の雪降るときに向こうから来るという事で、同じ年に泊りあうという形を取っているの、うちのように一年ごとに行ったり来たりとなると、六年生で行っても卒業してしまおうというような家庭もあるものから、なかなか同じ家に行き来するというのがなかなか難しいというのもあるので、エリアを無くするのかがどうかも検討の課題になると思いますので、引き続き話合ってまいりたいと思います。

▶長谷部会長

どうですか、よろしいですか。

これも多少のところ、将来の課題はあると思いますけれども、その辺は大いに検討していただいて、効率性のあるような形にしていければいいのかなと思います。

それではこの地域づくり予算について、どなたかほかに意見ございませんか。

まず、一番直に我々が行動と予算ということで議論の対象になるのが、この地域づくり予算の分野ではないかと思います。

前段の過疎計画云々というところについては、長期的に行政判断も高度的になるということはあると思いますので、この地域づくり予算というのが一番自らの判断で議論をする課題になると思いますので、皆さん方、このいま、書類に出ているこういう内容と数字で、まず27年度はやっていくという事で意見が無ければそういうことになる訳ですので、どうですか、皆さん、よろしいですか。

▶阿部（重）委員

すみません、よろしいですか。

27年度についてはもう決まっているんでしょ。

これは28年度の予算に向けた検討をしているという事だと思うんですけども、そうするとさっき、石黒さんから言われた通り、国内交流とか

農業体験、そういう交流体験が酒田市になった場合の交流のことを考えますと、それに変わるような何か大きな予算がつくような事業を考えて良いんじゃないかなと思うんですけども、そのへんはどうでしょうか。

▶阿部支所長兼地域振興課長

いわゆるオール酒田になった時に、というのであれば、そのぶんは特に必要無いというか、同じような事が市全体で行われるというのであれば、それはそれで良いのだと思います。

そのへんは、平田だけの事業として地域づくり予算がその分減額になったからといって、そこを補充しなければならないというものではないと思っています。

ただ、それが先ほど言いましたように、枠がそのまま残るようであれば、それは考えて行くという事で。

▶阿部（重）委員

是非とも、その枠が残るようであれば、いろんな面で皆さんの考えでもって事業を組んだ方が良いと思うのでないかと思っておりますので、その辺をよろしく願いいたします。

▶長谷部会長

はい、この皆さんの協議をいただいているのは27年度予算は26年度の今頃、ヒアリングに先駆けて議論して、遅くなってはダメなのだということやって来ている訳ですから、いまここで28年度の先を見越した事業計画予算で、いま言われたような改良とか変更とか、それで予算を変えて行くようにとか、それを含めての議論ですから、何か他に意見あれば。

▶池田（知）委員

私も今年初めてこういう会に参加しているので、ちょっと的外れだったら恐縮なんですけれども、これは地域づくり予算となっておりますので、4番のふるさと会交流促進事業なんですけど、毎年20万ちょっとの予算を使っているようですが、こちらは、交流は酒田から東京に行った10人とのあちらの方たちとの交流にしかならないのですが、これを大変だとは思いますが、あちらから、東京の方から呼んでいろんな事業をするという事はなかなか難しいのでしょうか、事業として。

例えば、今年は何だかタケノコが出るのがちょっと大変だったというお話も聞いていますが、例えば5月っていうと田沢の方のタケノコが凄くいっぱい出て、私も友達からいただいたのですが、参加型の、ただ顔を合わせて話をするっていうのではなくて、様々な参加型の交流促進事業っていうのはこれから大事になるんじゃないかなと思うんですよ。

ふるさと会に出てくる方たちも結構年のいっている方たちも多いのかなと思うのですが、そういう方たちが募集をかけてバスでこちらに来て、例えば山を歩いたりですとか、山菜を採ったりですとか、そういうふうな交流の仕方も私はこれからのふるさと交流事業ではとっても良い事だと思うのですが、全くこれとは真逆の関係で、準備等々は大変になると思うのですが、地域づくりの一つの方向なのかなって思いますが、支所長さんのお考えをお聞かせください。

▶阿部支所長兼地域振興課長

まず、今の実態といたしましては、こちら平田地域の出身の方が東京の

方で、首都圏ふるさと平田会を構成していて、その総会に呼ばれて行くという形なものですから、こういう事業の形になっております。

会員の方も、里帰り自体はされている方も結構いらっしゃるようです。ただ、それが団体では来ていない。

皆さん、自分の都合のいい時に、例えばお盆とか、まあ、主にお盆だとは思いますが、帰省はされているようですので、それをまた別の時期にして、という話になればむしろ会の事業としてそういうものに協力していくという形に、募集なんかも会としてそういう事業をするという事になって行くのかなという感じはしますけれども。

今までの、あんまり帰ってくる事が出来なかった人たちは、そういう事業があればまた、ふるさとを見る事が出来るので、大変良い事だとは思いますが。

でも直接いま、平田に招待というか、来てもらってというのはちょっと難しいかなというのは感じますけれども、考えさせていただきたいと思います。

▶池田（知）委員

なかなか、いま、これはあの、あちらで行うふるさと会に招待されるという形になる訳ですか。

▶阿部支所長兼地域振興課長

招待というか、旅費のお金はこちら持ちですけど、総会に招待されているという形です。

▶池田（知）委員

それで、平田出身の方たちと親交を深めて来るという事だけだと、なかなか交流促進事業とまでは言えないように思うのですが。

名前がこうなっているので、交流を促進するのであれば、そういうのも一つの方法かなとも思うので、是非、前向きに検討はしないと聞いたことはありますが、前向きに検討していただけると、何年後かでも良いと思うんです、いまいまというのでは無くて、なかなか都会から大勢でこちらに来るという機会も無いと思うので、そういう事をしかけて行くのも大事なのかなと思いますので、是非頭の隅にでも置いて頂ければと思いました。

▶長谷部会長

どうですか、執行部ありますか。

▶阿部支所長兼地域振興課長

特にはありません。

▶長谷部会長

はい、素直に。

私も、この平田会については平田の議員時代から相当何遍かお邪魔しています。

基本的には向こうから招待状というか、案内状をいただいて出かける身分なんです。

それでも、ずっと平田会については合併前からやって来た訳ですから、その当時から意見として多少出していたのは、この平田の出身者であれば、

水と空気と米で育ってきたのは皆さんですよ、と。

ですから、せめて平田の産物を食べていただきたい、これを行政から発信をしていただきたい、という事で当時の町長にも進言しております。

ただそれは現実的に皆さん、ご存じのようにそういった行動には至っておりません。

でも、いまの意見のように、この地域のありようを考えた場合、Iターン、Uターンになるか、その辺は別問題として、やっぱり出身地の現状を認識して、自分の生まれたところを将来どうしていくのかということになれば、やっぱりそういう現実の、こちらとしては正直言って、来てください、出席しますか、というこの限定された部分なんですよ。

でも、向こうの方でこちらに出かけるとなれば地域住民がそれなりの行動をとれるんです。

ですから、これはまさにいま我々の中でね、どう議論をして方向性を作るのかというのも、一つの方法なんだと思いますね。

だから、向こうに行って多少産物の販売もしています。

こちらから持ち込んでね。

それも正直言って、当初行った頃は160とか180といった数だったんだけど、いまここに見えている通り、100まで届かない状況まで変化をしている。

それはやっぱり、向こうの2世、3世というのがなかなかそういうふうに興味を示さなくなったというのがあります。

ですから、そういうのを含めてまたどうしていくのかということが現実問題としてこの問題は含んでいます。

まあ、これも来年度にどうするかという課題の中には入るのだと思うけれども、執行部ではいま現在このような考えのようですから、結局こういう事は変化をさせるものであれば、こういう協議会の委員の皆さん方から意見を出していただいて、まとめて行く、そして行政と話し合いをして、実現に漕ぎ着けるといのも一つの手法だと思います。

まあ、これからの課題だと思いますのでぜひ皆様からも、意見を出していただければな、と思います。

▶佐藤（鐵）委員

会長、ちょっとよろしいですか。

今の話に関連する訳ですけども、私も里山の会として交流人口拡大事業という事で、首都圏に営業に行った。

営業に行ったそのついで、ついででは無いですけども、平田会にも行って説明をして、是非あそこに来てくださいということを今から三年前くらいですか、行きましたけれども、私の同級生が十人ほど集まっていた。

それで同級会を兼ねてやっている。

ところが、今年はどうだったという事で聞いたところ、男性は誰もいない、役員をやっている阿蘇というのが一人、自分だけだということ、そんな状況で、うちのせがれもそういう平田会にも全く興味が無いということで、いま会長が言ったようにどんなことをしても若返りは全然ないんですね。

まあ、そんなことで将来どうなっていくのかなと。

ましてや、二世、三世なんて関係ないと。

自分のふるさととは東京な訳ですから。

まあ、そんなことでどうなっていくのかなと。

そんなことをこのあいだ電話が来て、感じたところです。

▶長谷部会長

そういう感想をお持ちの方もいるようです。
他にになにか意見ある方いますか。

▶阿彦委員

いいでしょうか。

ふるさと平田会については、いま話が出ているように、当初加入した人たち、恐らくあの頃で40代、50代くらいの方たちが中心になって、私が向こうにいる時期に出来たんで、そのまま年齢だけが上がって行って、新しい人たちが殆ど入っていないのが、いまの現状じゃないのかなと思います。

それは、そのとき気運が盛り上がり、やりましょうと、ドンと出来たような状況だったので、こちらから予算化してどうのこうのという事は別にしても、いろんところで平田出身者が集まろうというきっかけが出来るのかなと。

例えば、私の同級生なんかも去年やった、こちらで同級会があったんですけれども、そこで東京の人たちだけで連絡を取り合って今盛んに盛り上がっているというような状況。

どうしても知っている者同士が集まってというようなものがあると思います。

そういったものの情報を集めて、横のつながりを楯に繋いで行くような形で、まあ、行政でやっていくべき事かどうかというのは別にして、そういったきっかけを作れば何か盛り上がってくるのかな、と。

それは決して、我々の年代、それより下の年代というのはいつの時代になっても変わらないと思うので、そういった何かきっかけがあった時に出来れば行政の方からも支援してあげられるような、そんな仕組みにしていただければ助かるな、今後こちらの地域のためになるのかなと思います。

▶長谷部会長

という意見もあります。

執行部、ぜひ頭の中に入れておいてください。

皆さんもそのように考えているという事で。

他にありますか。

▶石黒副会長

ちょっと話は戻りますが、さっきの田園調布がオール酒田になる、岐阜も分からない、で、予算の枠が残るかも知れない。

残ったら何か考えましょうかで終わった訳ですが、残ったらでは遅いと思うのです。

残るかも知れないという今の時点から、ここに沢山の分野からお集まりです、是非、どうしてもこういうことをしてみたいという物を煮詰めて来ていただいておいた方が良いのかな、どうしてもこの予算を付けてくださいとって貰う予算であれば良いのかなと思います。

▶長谷部会長

はい、それに対して執行部何か意見ありますか。

素直に聞いておきますか。

▶阿部支所長兼地域振興課長

はい、了解しました。

▶長谷部会長

はい、それでは素直に聞いておいてください。

この他に何かありますか。

無ければ時間も大分過ぎましたので、この辺で5分ほど休憩をしたいと思えます。

- 一同休憩 -

④ 地域課題について

▶長谷部会長

再開します。

それでは4番に入りたいと思います。

執行部の方から何かありますか。

▶阿部支所長兼地域振興課長

特にありません。

いま、委員の皆さんが感じているようなことを地域課題として取り上げて行くという事で、それぞれ発言いただければと思います。

▶長谷部会長

はい、この4番は特別資料というものは執行部は持っていない、と。

むしろ皆さん方の意見をフリートークのような形で出して行きたい、というのはその他の部分とも一緒になるような可能性はありますけれども、地域課題についてという事でみなさまから意見があれば出していただきたい。

▶岩間委員

意見がちょっと偏っているような気もしますが、お願いします。

その他と絡むという事でございましたけれども、酒田市って合併して大体10年くらい、先ほど言っていましたけれど。

その中で、あの当時、私も農協の理事なんかやっておまして地域総合開発審議委員会なんていうものがありましたね、平田町はあの当時。

総合計画でしたか。

その中で当時、いろいろと胎蔵山関係でご意見申し上げて、当時2千万くらいの予算が付いたのですけれども。

要するに、登山道整備などを含めた。

それが合併になってそのまま酒田市に上がって行ったという話を聞いていたんです。

それがどうなったのか、棚上げになったのか、あるいは消えたのか。

それをまずお聞きしたい。

それと胎蔵山を絡めて、いろいろ材料費等々いただきました。

大変ありがとうございます、この場を借りて御礼申し上げます。

いろいろ、看板とか、あるいはチェーン設置とか、いろいろこう何十万ペース、結構、毎年3年くらい続けていただきましたかね。

おかげさまで、胎蔵山も登りやすくなりました。

それは材料費いただいた訳で、非常に安く上がる訳で、我々も大分貢献しています。

大体80万円くらい材料費いただければ、業者だったらお前、これくらいだったら請け負うと聞くと、これは350万くらいでもダメだなというところを、我々は何分の一でやった訳です。

ただ問題は、これから、前もですね胎蔵山関係でコミ振と元田沢地区と胎蔵山口マン会と三者連携で申請を出しているのですけれども、お金のかかるような物も上がっているんです。

例えば、多目的小屋と申しますか、避難小屋と申しますか、そういった物が欲しいなというのが上がっているのです。

これはちょっとまとまった金、我々の中に職人さんもおりますので、安くは上がるとは思いますが、まあ、なんぼかはいくと思うんです。

そういうような場合には、どのような流れで行った方がよろしいのか、また、支所管内のあなた方も当然、申請出せばヒアリングになると思いますので、その時にいろいろ助言をいただきたいと思いますので、その辺の流れをどのようにして持って行ったらいいのか、お聞かせ願いたいと。

来年度事業ですするためには恐らく8月いっぱいか、9月中くらいにはこれくらいの物がかかりますよという事で具体的な事を出さないとなかなか予算化出来ないという話も聞いていますし、その辺のところを一つよろしくお願いいたします。

▶長谷部会長

はい、執行部。

▶阿部支所長兼地域振興課長

はい、予算に絡みます点につきましては、前の過疎計画の表がありますけれども、この表の中で所管課という欄があります。

一番前のページですと農業の振興だとか産業の振興だとかになっているところの、その備考の前に所管課というところがあって、一番上の事業につきましては農林水産課となっております。

そこから下がって来まして、観光になりますと観光振興課という課の名前が入っております。

実際の予算につきましては、こういう事業についてはこの所管課の予算になります。

それで、先ほどの新しく過疎計画に載せて欲しい物を、各自治会の方に照会をするというお話をしましたけれど、そこで上がって来たものを、それぞれの事業がどこの所管にあたるのかということで、支所の方から所管課の方に、こういう要望がありますよとお伝えをして、それで、所管課の方で優先順位を付けて、やるもの、早めにやらないといけないもの、5年間のなかでやれば良いものというふうに分けて行くという形になって、最終的には所管課の判断で、予算化される、されないということが決まって行くという流れでございます。

▶岩間委員

と、申しますと、例えば前に申請を出している訳ですよ。

それを再度出さねばならないという事になる訳ですか。

その流れを汲んでくれて、お前さんがたどうなっているんだと言ってくれるのか、それとも再度また集まって申請しなければならないのか。

- ▶阿部支所長兼地域振興課長
申請ですか。
- ▶岩間委員
申請というか、以前、陳情をしているんです。
- ▶阿部支所長兼地域振興課長
それであれば、向こうでそれを認識していればそれは上がってくる
ことになります。
- ▶岩間委員
認識していなくて忘れられていたら。
- ▶阿部支所長兼地域振興課長
だとすれば、そこはもう一回。
もう一回というか、追加で上げる事が必要になるのかなと思います。
なお、確認するうえで、もう一回出してもらったものをお伝えするとい
うのであれば、万が一忘れていたとしても思いだすのではないかとはい
思います。
- ▶岩間委員
そうですね、観光の方に確かめてみます。
以前、お話をしていたときに、上の方に予算が上がっていたような記憶
があるような気もするのですが。
- ▶阿部支所長兼地域振興課長
ちょっと、いまこの場ですぐ即答は出来ないと思いますので、後から経
緯とか調べて。
- ▶岩間委員
そうですね、調べてみてください。
- ▶阿部支所長兼地域振興課長
分かりました。
- ▶長谷部会長
はい、それではよろしいですか。
執行部は、岩間さんの提案についてよろしいですか。
岩間さん、一つ言いますけどね、これ。
合併の時に、平田はこういう物を合併条件にしていますよというものはあ
るんですよ。
だから、このあいだ言ったように27号計画とか、こういうものが現在、
新市の中でどういう扱いになっているのか、正直な事を言うと検証しないと
これはダメなんですよ。
ですから、その検証をやっていないという事が、住民が一番不安を持っ
ているという事なんです。
ですから、検証して行けば、いま岩間さんの出されたような問題も、恐
らく浮きあがってくると思います。

▶岩間委員

是非ともしたいですね。

▶長谷部会長

ですから、これも検証というと、例えばこの協議会だけで検証という物を出すのか、住民サイド、特にコミュニティ振興会の役員として出て来ている人がたが、帰って自分のところのコミュニティ振興会の中にそういう物を出していくのかどうか。

それで確認をするのかどうか。

それが自分たちのコミ振の中に何が入って行くのか。

こういうものをやはり再認識にしない事には先の議論には繋がっていかないし、結果が見えてこないという事です。

私も合併した3年目でしたか、各町長に対して検証会をやってくれという申し込みをしましたが、当の町長がたが逆に言うと、もう辞めたんだからやらないという答弁だったのが、いま皆さんの住民の皆さんに与える不安の一番の原因になっていると私は思います。

その当時やっておれば、今のような問題は何かの形で継続して議論できたはずなんでしょうけども、それをやっていませんので、すっとん落ちていってますよ。

▶岩間委員

要は、たまたま私はこうやって委員になっているので分かっているのであって、なっていないければ分からないことですよ。

▶長谷部会長

はい、この課題は地域課題ですので、まず岩間さんの方から田沢の方から出ましたので、他のコミ振の方々、意見あったら出してください。

コミ振の代表という立場から意見を出してください。

阿彦さん、ありませんか。

▶阿彦委員

どういった地域の課題がどこにあって、どうなっているのか、そういうのははっきりさせてから意見は出したいと思いますが。

▶長谷部会長

東陽さんはそういう事のようにです。

菅原さんはどうですか。

▶菅原委員

農業地区での地域課題という事で。

いま、家畜を飼っている方は少ない訳ですよ。

でも、既存のやつは集落のすぐそばにあるわけですね。

今それが、臭いで苦情が来ています。

それを衛生委員の代表の方が、本人に言ってもなかなか改善できないものですから、役場に行って話して来た。

でも、その答弁がまだ帰って来ていませんという事なんですけれども、その辺はどうなっているのでしょうか。

- ▶長谷部会長
執行部、何かありますか。
- ▶阿部支所長兼地域振興課長
具体的な事は耳にしていませので、あとで確認させていただきたいんですけれども。
- ▶菅原委員
うちの方で、代表の衛生委員さんの方が、臭いので何とか改善していただけないかという事を、総合支所の方に行ってお願したと。
やはり、隣人に言うというのは大変、喧嘩にもなりかねませので、やっぱり第三者、然るところからそういう、苦情が来ていますので改善してくださいということを書いて頂いて、その返答がまだ来ていませとの事ですので、その辺の確認をしていただきたいなと思います。
- ▶長谷部会長
そういう話を受け止めて、次の行動に考えて行きますか。
それでよろしいですか、何かありますか。
- ▶阿部支所長兼地域振興課長
今のところは何も返答できる材料がありませんので、確認させていただきます。
- ▶長谷部会長
では、そういうことで受け止めてください。
それでは、南平田コミュニティ振興会、何かございますか。
- ▶長谷部（信）委員
はい、私としてはまだ何も良く分からないので皆さんの話をかしこまって拝聴させていただいている。
というのは、コミ振代表と言っても、コミ振代表というような具体的な話も無いので、個人の話をして良いのかな、それはどうかなとも思いますので、コミ振代表というのでコミ振全体の話をすべきだと思いますので、私はまだ勉強させてもらっているところです。
- ▶長谷部会長
コミュニティ振興会の中で、何か課題があるのか無いのか、検討をしてみてください。
お願いします。
- ▶長谷部（信）委員
わかりました。
- ▶長谷部会長
それでは次の方、砂越・砂越緑町さんですか。
- ▶後藤委員
私の方も、南平田さんと同じでコミ振の代表として来ていますが、個人的な意見で通るものではないなと感じていますので、帰ってコミ振の会長

あたりと、良く相談をしながら、これから地域協議会に参加して地域の一員として話を持ってきたいと思います。

▶長谷部会長

はい、よろしくお願いします。

次は、認定農業者という立場になりますか。
農業問題。

▶久松委員

農業問題と言っても平場から山場まで広くありますので、結局、皆の意見を総合的に出すというのは難しいですので、そうすると結局個人的な意見を出すしかないの、ちょっとまず、いろいろ考えている最中ですかね。

▶長谷部会長

それではですね、酒田市の中に農業再生云々というその組織があるんですよ。

相当その広範囲な方々が参加していますけれど、その中で執行部の建設産業課ですか、受委託、中間管理機構のなかでいま現在内容は変更しています、当初の時よりもその時に、最初の会合の時に、受委託をしたけれども、7. なんぼ、8町歩ほど受け手がいないという話が出てきたんですよ。

それがどこなのかと調べたところ、旧平田町なんですよ。

それで、このあいだも、農林部長が少し話に触れていましたけれども、その中で、受委託の成立しない部分で委託をしたいと出した人の田んぼを2年間、機構の予算で管理をして、それでも受け手がいない場合は個人に返すという発表があったものですから、そのことについて話をしたところ、機構では管理をしないという答弁をしたよね、このあいだ。

▶阿部支所長兼地域振興課長

管理をしないというよりも、受付しないという話でしたね。

▶長谷部会長

という事は、基本的にはあくまでも個人の部分になって行くという事ですか。

という事がこの平田の山間部、という事はですね、最初のところで八幡には升田と青沢という奥深い山間部がある訳ですよ。

ここでは、海ヶ沢、円能寺、小林という最端部があるのですけれど、ここだけがそういうものが現れているという事で、それで先ほど言ったように山間部の米は美味しいので、ある自治体は契約栽培で54,000俵の米を出荷するというのが出来あがっているの、そういう物も意見として出してはみたんですよ。

ですから、農業問題にしてもそういう何かを考えて行かないと、やっぱり行政、農協、地域住民、農業者、こういうふうを考えて行かないと、山間部の農業はどうなっていくのという、まず我々の悩みで、過疎計画云々というのでだいぶ資料で出て来て、見直しかけるとか立派な事は書いてはいますけれど、現実はその以上に深刻なんですよ。

それでその遊佐米みたいに、冷水のかかるところは収穫は少ないけれども、米はおいしいんだよと、だから契約栽培みたいな行動はとれないのかという意見は出してあるんだけど、まあこれもこの地域の事を考えた場合、将来の課題になると思います。

▶岩間委員

大きな課題ですね。

▶長谷部会長

池田さんの方、何かありますか。

▶池田（知）委員

私の方は地域課題と言いますと、いま、高齢化率ということが奇しくも会長のお話の中にもありましたけれども、やっぱり高齢化率が進んでおりまして、南平田、砂越、緑町地区はまだ子どもたちの数が多い分、高齢化率がちょっと抑さえ気味なんです、あちらの方に行くのとぐっと進んで来ているんですね。

その関係で、お互いに見守りあうっていうのは一つの課題になっていまして、その為にはやっぱり、地域だけではなかなか見守りが出来づらいというか、容易でない地域もありますので人口の交流が必要なのかなというのが一つと、それから平場の方におきまして、アパートが建ってきますと結構出入りが激しくて、アパートの中になかなか定住しないというような実態があります。

先日も二日前に酒田市の福祉課と社会福祉協議会の集まりがあって、そこに出てきたんですけども、区長さんも出入りの実態は報告されないという事で、そのアパートに誰が住んでいるのかという実態把握がなかなか難しい状況になっているという話がありました。

それで、私たち民生児童委員は市民課の窓口に行きまして、世帯表を閲覧出来るんですけど、だからと言って不用意に区長さん、自治会長さんに報告する訳にはいかないという事態があります。

それで、役所の方では情報の共有化っていうことを凄く言うんですけど、一旦上げた情報は決して私たちには教えてくれません。

だから様々な場面で、災害等々が起こった時にですね、果たして住民をきちんと把握できているかという、誰も把握できていないんじゃないだろうかという、これはある意味、人口が増えて良い分、なかなか昔のような村っていう感覚が無くなって大変だなっていう実態はあります。

それがプチ都市化っていうんですか、ちょっとだけ都市化されたというのが課題と言え、課題だと思います。

▶長谷部会長

執行部、いまの意見に何かありますか、聞いておきますか。

▶阿部支所長兼地域振興課長

はい、

▶池田（知）委員

私たち民生児童委員の立場としては、市役所からも情報を上げて欲しいんです。

あと、市役所だけでは無くて社会福祉協議会ではしてくれるのですが、包括支援センターに到っては全く、こちらから情報を提供しても教えてくれません、それがどうなったのか。

それはやっぱり、いくら個人情報の枠があるとは言え、情報の共有化というのは双方向じゃないと情報の共有化とは言えないのであって、片方か

ら上げて、そちらからよこさないというのは、ちょっと、もうちょっと考えていただけないかな、と。

まあ、法律の壁と言われてしまえばそれまでなのですが、その辺ちょっと検討お願いしたいかな、と思います。

▶長谷部会長

はい、企画振興部の担当はどう受け止めますか。

▶阿部勉政策推進課長

個人情報保護の観点と、地域で見守りして行くときの不都合が出ているという実態なのだと思います。

私も個人情報保護の範囲がどこまで、どこまで情報交換していいのかということが、ちょっと良く理解していないのでコメントのしようが無いのですが、アパートに住まわれている方との、直接の訪問をして確認するですとか、そういったことが実際には出来ない状態にあるということなんでしょうか。

教えてくれないという事なのか、積極的に邪魔をして家庭訪問をすれば、家族構成は名前程度は教えてくれるのではないかなと思うのですが。

▶池田（知）委員

いえ、住民台帳を閲覧すれば、それは私たちは把握できます。それで世帯表を作りますので。

▶阿部勉政策推進課長

会長さんが邪魔して、もしくは自治会の方が訪問して。

▶阿部（重）委員

あの、住記の方はですね、民生委員が申請すると自分の担当の地域だけは見られるんです。

それで一応、見て来ることは来るのですけれど、いま池田さんが言われている通り、アパートなんかだと、なかなか不在。

そういうものが多くて実態をつかめないというのが現状です。

だから例えば、民生委員の方からは独り暮らしの情報、独り暮らしの数だとか、二人高齢者世帯ですとか、いろんなものを上げているのですけれど、それをもとに市の方で、福祉課の方でデータを出している、というような事もあるようです。

しかし、なかなか市の方からは今まで返って来て無かったんですけれども、最近、包括の方でも返すようになりました。

最近、交流もできて少しは改善なったかな、と私は思います。

▶長谷部会長

という認識もあるようです。

もう少し、行政の方も住民サイドの現実を良く見極めて、対応するように努力をしてください。

▶長谷部（信）委員

いいですか。

先ほど、アパートが飛鳥の自治会関連で三か所建設されております。

それで、酒田市の市営アパートに居住されている方は、自治会に加入し

てもらっているのですが、阿部支所長も良く分かっていると思いますが、民間のアパートに入られた方は、まず自治会に加入はされません。

それで、いろんなアンテナを張り巡らせて何とか、そこそこに、あそこは一階には阿部という人だ、とか。

まず、なんとか分かるんですけども、家族構成とかいろんな詳しい事は全然わからないんです。

民間のアパートでも自治会に加入されている方は、数名おりますけれども、大多数は自治会に加入はされません。

これからもアパートは立地的に良いものですから、建つ可能性もありますけれども、これからも自治会加入は多分無理でしょう。

だんだん都市化なっていますので。

一応、参考までにお話ししておきます。

▶長谷部会長

と、いうのが、南平田コミュニティ振興会の中や砂越・砂越緑町の方にも現実起きています。

ですから、コミュニティ振興会で公民館制度から変更した意味、どこにあるのか、という事です。

コミュニティというのはお互いの絆とか、ふれあいとか、そういうものを積極的にとって行って、仲良く暮らしましょうというのがコミュニティなんですよ。

これ、見た目は看板付け替えたけれど、内容は逆方向に行っているという現実もあるんです。

はい、それはこれで一つ。

南平田コミュニティ振興会の課題の一つだと思います。

他に何か意見ありましたら言ってください、せっかくですので。

▶佐藤（み）委員

平田婦人会の佐藤です。

昨年、ふるさと会の東京の方に行かせていただきまして、気づいたんですけども、ある人が歳いている人は来るんだけど、若い人が来ない、若い人に教えないんじゃないですかという人がいたんです。

それで、こっちの方から三人ほど行って、あっちの方でやっているのを見て来て、これ出来ないのかなと思いつつ帰ってきました。

さっき、池田さんからお話しありましたけれども、そういう事も出来ないのじゃなくて、一回やってみて、それでもダメだったら戻しても良いし、やっぱり実行する事が先なんじゃないかなと、私はいつも、何でも実行から始まるんじゃないかと思えます。

ちよつとした考えですみません、そんな感じです。

▶長谷部会長

はい、阿曾さん、何かありますか。

▶阿曾委員

特には思い当るところも今のところ無いのですが。

▶長谷部会長

日常思っているところで良いんですよ。

無ければ、阿部さん。

▶阿部（重）委員

小さい事なんですけれども、いろいろと支所の方に要望いたしますと適切に対処していただいている、大変有難いです。

このあいだ支所長にも話したんですけれども、うちの方の林道の関係で、数年前に地滑りがあって使えないような状態になっておったのですけれども、今般、地域の方で修繕いたしまして、一応、車の方も入れるような状況まで回復しております。

それで、ただ、地滑りがあったものですから、その部分に対して砂利が入っていないんです。

それで、何とか市の方で協力をいただきながら、そこに砂利を引きたいなという考えを持っておりますという、それを一つお願いしたいという事。

それから、昨年にも申し上げましておったのですが、県道の水の件。

中村のところの水の件、あれを6月頃に県の方に通しておくというのがありましたけれども、その辺はどうなっているのかなという事です。

▶長谷部会長

執行部、答弁をお願いします。

▶阿部支所長兼地域振興課長

まず、最初の林道の件については、建設産業課の担当の方に話をし入れてもらうように農林水産課と調整してもらいます。

まだ、結論は出ていない訳ですけど。

▶佐藤栄一建設産業課長

中村の水の件。

あの山を見に行った時のやつですね。

現場をあの後、見たんですけれども、場所的にちょっと分からないのと、やっぱり冬期間だったという事もあって、その時期にもう一回お話をさせていただかないと、と思っていたところです。

どういう状況だかはっきり分からないと、対応も出来ないの。

県道という事で、市で対応出来るのか、という事もありますので。

ちょっとその辺をもう一度。

場所とかですね、時期になったらもう一度、うちの方でも覚えてはおきますけれども、お声掛けしていただければ、状況を見ないとなんとも出来ないと思います。

▶阿部（重）委員

分かりました。

▶長谷部会長

課長、いまあなたの答弁を聞いて不思議に思ったのは、言われたから現場見ましたけれど、分からないので、という答弁を今しましたね。

だとしたら、言われた方に再度問いかけて現場に来てもらうなり、話をもう一遍確認するなり、それは出来ないんですか。

▶佐藤栄一建設産業課長

いえ、場所ではなくて3月にならないと水が出てこないと言われたものですから。

▶長谷部会長

それだってね、そういう意見の人にもう一遍確認をするということをしてないとダメですよ。

▶佐藤栄一建設産業課長

はい、分かりました。

▶長谷部会長

そういう事をやっているのは、いつまでたっても解決しないですよ。

それでは、阿部さんが終わったので高橋さん。

何かありますか。

▶高橋委員

私も受入して15年からですから13年になります。

直売所の方でお土産という事で、最初は結構なお家もあったのですが、最近は年々不足になって来たように感じます。

それでここは基幹産業といたしましては農業な訳ですけど、3年くらい前から1.5キロくらいのつや姫が子どもさんにお土産という事で、受け入れ家庭と子どもさんにも出たような感じです。

それで、これは要望なんですけれども、直売所としてはでなくて、お米をお土産に使っていただくとか、これからの美味しいお米ですので、ご父兄の方々も買って頂く、買って頂くというところちょっと言葉は悪いんですけど、続けていただくような感じでしていけたら良いのじゃないかな、と思っています。以上です。

▶長谷部会長

はい。と、いう事ですので執行部受け止めてください。

次に佐藤さん何かありますか。

▶佐藤（鐵）委員

私が口を開くと、なんかNPO里山の会の話ばかりだと思われるかも知れませんが、我々のNPOは仁助新田のひらた生涯学習センターを中心にした中山間地域をどうしていくのかということで作ったNPOでありますので、全て関わるのですけれど。

先ほどずっと意見も述べました、要望もしました、一つちょっとどこかの部分に悠々の杜、悠々の杜の整備というようなことで、ちょっとどこかのページか忘れてましたけれども、我々もあそこを市民の憩いの場、それから子どもたちの自然学習広場ということで、観光振興課の許可をいただきながら、遊歩道を作り、そこにチップを小学校、それからこのあいだは第一中学校から150人ほど来てもらって、チップを遊歩道に敷いてもらったと。

それで、松くい虫で真っ赤になった松、それから枯れた広葉樹、古倒木、そういう物を黙っていけばいつまでもそのままの状態、そんなことで、そのままにしておくのも出来ない訳で、事故が起きたら誰の責任になるのかというようなことでいろいろやりまして、松くい虫の松、それから古倒木の危険性のある枯れた木などを里山の会の方で酒田市からのスポットの業務で全部整備しました。

ですからかなり整備はしていますけれども、総合支所としては観光振興

課の管轄であるという事でなかなか、直接話をするという事が出来ないんですけど、せっかくああいう素晴らしい景観があるもの、しかも平田町時代にキャンプ場を作るという事で、電気もある水道もある、我々いま、あそこにトイレを何とかしてもらえないものかというふうには言っただけなんですけれども、そう簡単には行かない部分だとは思っただけなんですけれども、ぜひ、悠々の杜、これいま我々、山形県のみどり環境公募事業に応募して3年目になります。

それから山形県をやまがた社会貢献基金、それからもう一つ大きいところで、花王石炭のみんなの森づくり活動助成金を3年間貰って、多くは市民ボランティア、草刈りをして整備をしています。

まだまだ、これからずっと続く事業ですけども、何とか総合支所の方で、見晴らし台、我々デイキャンプなり、流しそうめんなり、絶景いも煮会なりやっていますけれども、トイレが無いものですから、何とかそのトイレの設置を働きかけてもらえませんか。

▶長谷部会長

執行部、受け止める方で良いですね。

意見を聞くという事でね。

では、そのようにお願いします。

藤原さん、何かございますか。

▶藤原委員

見守りのことでちょっと考えているんですけども、一つは子どもの見守りの事ですね。

下校の見守りをさせていただいて12年目に入っているんですけども、砂越・飛鳥の集落が続いている家並みが続いているところは、下校でもそんなに心配はいらなないと思うんです。

したがって、私が主に歩かせてもらっているのは郡鏡の地区何ですけども、集落が飛び飛びです。

学校にいくらお願いしても、下校時が4時を過ぎても一人、二人、単独で下校し、帰宅する子どもが絶えません。

そんな事もありまして考えているのは、ここに阿彦健さんもいらっしゃる訳ですが、かなり遅くの時間までJPの皆さんが郵便の配達をなさっておられます。

そこで、学校とか子どもの見守り隊と、JPの郵便配達をされている方との協定を結んで、子どもさんが下校時に何か危険な状況に遭遇した時に、お互いに連絡を取り合うシステムは出来ないのかな。

そういう面ではJPのみなさんが物凄く有効な役割を果たしてくださる立場にいらっしゃるのかなというふうに思っております。

これは、ここに教育委員会が無いものですから、どこにそういう話をして行ったらいいのか、地域振興課の教育部署の中で教育委員会の機能的な役割を果たしていただけるかと考えているところでした。

二つ目には、大人の高齢者の見守りの件でございます。

熱中症弱者という言葉があるのを不勉強ながら、私テレビで初めて知りました。

一家の中で、二人暮らしの高齢者の片一方が熱中症で死んでいるのを、片一方が知らないでおったというニュースも最近出たようですが、平田地域においても高齢化が進んでいる中で、集落によっては三十何パーセントが高齢化の集落に、限界集落を超えて高齢化の集落になっているというよ

うな事もデータに出ている訳ですので、なんとか、こういった熱中症弱者への手を差し伸べる心配りもこの地域で必要なんじゃないかなと思っるところでございます。

最後に、石黒光二さんの彫刻の作品展が、いま松山の伝承館で開かれている訳ですが、8月30日までです。

素晴らしい、感動の作品展が開かれている訳で、平田地域の皆さんの中にも鑑賞された方はいっぱいいらっしゃると思いますが、平田の芸術財産だと思います。

この作品展が酒田市合併十周年記念事業として銘打たれている訳ですが、平田の総合支所、あるいは芸文協あたりで、もっともっと支援の手が差し伸べられないのだろうか、ちょっと残念に思っておりました。

開幕式典では総合支所長さんもお出でになっていらっしゃるようですが、平田がみんな石黒光二さんを後援会だけじゃなくて、支えて後押ししてあげられる体制が出来ないのかなと、ちょっと感じているところです。以上です。

▶長谷部会長

執行部、今の意見も素直に聞いておきますか。

善後策考えてくださいよ。

▶阿彦委員

いま、郵便局の話があったので少し紹介させていただきます。

報道等でもされているんですが、ここではないですけども、お年寄りの方も含めて、郵便局なんかで見守りの方、やっへ行こうという事で具体的に協定を結んで、活動というか実際には配達に行った際に声を掛けるだとか、何日も郵便受けに物が貯まっていたら、ちょっと通報するだとかという形でやっているところもございませし、実は我々もバイクを見ていただくと分かるんですけども、一応見守りのシールみたいなのが貼ってあるんです。

ただ、具体的にどうのこうのというのが何も無いので、ただ配達途中で、子どもたちを見たら危ないような事をしていないかとか、そのくらいしか出来ないんですけども、そういう意味では、酒田郵便局の方に声をかけていただければ、逆に具体的にこういう場合はこうしなよとか話になるのかな、と思います。

私の立場で話は決められないんですけども。

一応、話をする価値はあるかと思ます。

常に我々も普段から、気にはかけているところはあります、お年寄りも含め。

▶長谷部会長

という意見もありますが、支所長。

仲人役だな。

▶阿部支所長兼地域振興課長

はい。

▶岩間委員

肝心要のものを忘れておりました。

羽州林道、あそこ通行止めになっておりますよね。

ああいったところは酒田市でどうのこうのと言える事では無いのかも知れないのだけれど、あそこはいろんな活動拠点で、歩道の草を毎年スパンを決めて刈ってやらないと、どのくらいでしょうね、最低3、4年に一回くらい手を入れてやらないと、真室川との交流もありますし、あれはいつになったら通行止めが解除になるんでしょう。

無理に入れば通られるとは聞いていますが、もし何かあっては大変でしょうし、それは今年のものにはならないのでしょうか。

▶佐藤栄一建設産業課長

はい、いま通行止めになっております、羽州林道というか、その前の県道が通行止めになっている訳ですけども、落石の危険があるという事で、いま、作業道だけは作ってですね、そういう作業をする時には行く道路は出来ております。

ただ、一般的に通行はちょっと落石の危険があるということで、当面の間となっていますけれども、なかなかいつまで、いつ開通になるかというのは県のほうからも来ていないところです。

それで、羽州林道の側溝の方の草とか、そういうものは作業道を使って、うちの方の職員が県の方の許可をとって、側溝が埋まっていたり、草のところは作業をする予定でおります。

▶岩間委員

いまは通られないでしょ。

▶佐藤栄一建設産業課長

作業道は出来ておりますので、県の許可を取るとそういう作業をする人だけは通れるんです。

▶岩間委員

一般羽州林道だけではなくて、そこから逸れて入る旧道もありますから、羽州林道ではなく、そこに行きつくまでの手段としては通行の許可はいらぬんですか。

▶佐藤栄一建設産業課長

いま言ったような作業を例えばNTTさんとか電力さんなんかは作業のために通る場合は許可を取るという事です。

▶岩間委員

それはここの頼めばいいんですか。

▶佐藤栄一建設産業課長

庄内支庁になります。

▶岩間委員

面倒臭いですね

▶佐藤栄一建設産業課長

うちの方も庄内支庁の方から許可をとらないと行けないという状況です。

▶岩間委員

では、実質ダメですね。

▶佐藤栄一建設産業課長

田沢川ダムまつりの時なども、車を停める関係があるものですから、ダムのところから通行止めになっていますけれども、特別な許可を一日だけとって、通行止めを解除して車を停めるような形で許可申請を、市の方でもしなれば通れない。

▶岩間委員

もうひとつ。高橋さんに聞いた方がいいのかな、これは。

めんたま畑の加入要綱というんですか、入れる選定基準みたいなものは何かあるんですか。結構敷居高いような気がするんですけども。

▶高橋委員

やっぱり、一生懸命に農産物を作って頂いて、責任もって生産できる方を募集しています。

▶岩間委員

では、例えば、個人的な事かも知れないけれど、去年、一昨年、3年くらい前だったか、老後の備えとして蓄えておかないとな、ということで話を聞いてみたら、あなたはうちに出すのはそばかラーメンですね、バッティングする方がいるからダメですよ。

それと、あなたは店開いていますね。

店と言ったって商工会に入っている訳ではありませんし、六次化産業としてやっているの。

だから不適切ですよ、となるとかなり敷居が高いな、と。

なので、選定基準的にどうしたら入れるのだろうか。

▶高橋委員

即答でしたか。

▶岩間委員

面接も受けさせてもらえませんでしたよ。

具体的な例を挙げればと言われれば挙げますが、当時の会長さんです。なので、後で選定基準を教えてください。

▶高橋委員

はい、わかりました。

▶長谷部会長

岩間さん、正直なところを言いますと、めんたま畑は公設民営で、地域の活性化を目的にしているの、そういう物を作る時、条件は出していません。

だから問題は一人でもお客さんがいっぱい来て、ここには良い物があるなど喜んでもらう活動をしてもらうのがこの基本なので、それを足引っ張るようなことが無いとすれば、それはめんたま畑の発展促進に貢献出来るのであれば、良いというのが基本になっているはず。

▶岩間委員

めんたま畑の運営者がダメだというんだから、何かあるのでは無いんでしょうか。

▶高橋委員

前は確かにいろいろあったみたいですが、転作しているとか何だかとか、いろいろとありました。

ありましたというか、あったようでした。

でも今はもうそんなに。

▶長谷部会長

確かに正直言って、前はそういうマイナス要点があったから、警戒してそういうのを言い始めると思うんです。

でも、基本はそうではないので、だから皆さん、会員がいまあそこでやっている人が本当に良い物を販売してそれなりの効果を上げているという、それを崩れなければ良い事になっているので、まず皆さんから協力して良い物を販売してもらって買ってもらうというのが基本ですから。

▶岩間委員

ただ、バッティングしてはというのがありましたから。

まず良いです、後で教えてください。

▶阿彦委員

よろしいですか。

消防団について、市の見解を伺いたかったもので、よろしいでしょうか。

酒田市10年。消防団も合併して10年。

消防団は酒田市消防団平田支団ということで、平田支団の中に5つの分団があります。

コミュニティ振興会も5つあります。

この、コミュニティ振興会と消防の分団がぴたっと一致しているのはいくつあるものですか。

どこの部分で、何分団でどういう組織か。

分かっているかたはいらっしゃいますか。

▶阿部（重）委員

30分団がネックなんです、実は。

北俣から榑橋まで、そこに3つのコミュニティがあります。

それでしょ。

▶阿彦委員

はい。結局、コミュニティ振興会が出来た経緯と、もともとあった消防団の分団が、平田の時代から今の分団になっていて全然変わっていないんです。

だから、合併した時に松山なんかは上手く組織を変更して、減らしたりとかやったみたいなんですけれど、平田はそれをしなかったものですから、昔のまんまになっている。

何が言いたいかというと、各コミュニティ振興会なんかでも防災活動を当然されていると思うし、そうなれば当然消防団は地域の防災活動の一翼を担わないといけな。消火だけでなく、普段の予防活動だとか。

そういった形で活動をしなければならない訳です。

そういった時に不具合が生じてこないのかというのが一つ。

何で今さら言いだしたのかというと、10年も経ったのに何も変わらない。

それ以前から、山間地は人も少なくなっている、団員の確保も大変だ、ということはもう、何年来言われている事で、私も消防団の幹部の研修というか、総会がある訳ですけども、そのたびに山元の方だとか北俣っていうところのあたりからは、消防団の大変さを考えて欲しいというふうに毎回出る、その都度、考えてみますという話が出るんですけど、10年経っても何も話しすら出ない。

どうしても人がいない、例えば円能寺を無くして一緒になるとか、とか海ヶ沢が無くなってとか、小さい再編はしているんですけども抜本的な組み合わせをしていない状況なんですけれども。

考えていただければな、と思うところです。

▶長谷部会長

時間も時間になりました。

こうして聞いてみると、皆さん多種多様な立場で多種多様な意見をお持ちのようです。

これを執行部、我々組織で持ち帰って意見を共有して、将来のありようという物を今後も協議したいと思います。

(8) 閉会

▶石黒由香副会長

長い間協議いただきましてありがとうございました。

これを持ちまして平成27年度第二回平田地域協議会を閉会いたします。
お疲れさまでした。

会議録署名委員

阿 斎 健